

「目標を達成するための（もしくは、できていない生徒への）声かけ方法の検討（なぜって考えさせる声かけや自発的・自主的な活動を促す具体的な方法）」

別紙6

公共心	次に使う人のことを考え、使った場所や借りた食器等を清掃し、返却する体験を通じ、思いやる心を育むことができる。
生活力	自然の中の限られた環境で、火や刃物を安全に扱い、仲間と協力し、段取り良く作業を進めるという体験を通じ、生活力を育むことができる。 (コミュニケーションスキル、家事・暮らしスキル、課題解決スキル)
責任感・連帯感	自分の役割に責任を持ち、その役割を果たすことで、一緒に作り上げる達成感や連帯感を味わうことができる。
自己有用感	仲間と協力して活動することで、学校生活では見られない仲間の良さに気付くことができる。
自然愛護	水や薪の使用量を減らしたり、ゴミを減らしたりすることで、環境を守る意識を持つことができる。

## 公共心

>カレー 2回目の食器点検において とことん野外炊事（公共心）

・1回目の食器点検の際に、「次に使う人のことを考える」ことの大切さを伝え、きれいな状態にして返却させる。また、2回目の食器点検時には1回目の食器点検合格時と同じような状態で返却することを期待している旨を伝え、生徒に意識させる。

→「昨日の点検の時に、汚れていたところがキレイに洗えていますね。反省を生かして次につなげていますね。次に使う学校も今日のみんなと同じように気持ちよく使えるはずだね。」という話をして、自分の活動を振り返ってもらう。

※2回目に使用する食器は、別のグループの食器を使用することで、実際に「次に使う人」の立場になって実感することもできると考える。

## 生活力

>カレー 2回目の全体説明において とことん野外炊事（生活力、責任感・連帯感）

→「昨日は、みんなで協力して野外炊事をがんばってできましたね。

昨日は、私たちセンター職員が手順やポイントを説明しながらカレーを作っていました。今日は、昨日の体験を基に、自分たちだけでカレー作りに挑戦してみてください。

昨日と同様、自分の役割を果たすことにプラスして、今日は友達と作業の確認をしながら、先を見越して、段取りよく作業を進めることを意識してみてください。

今日もみんなで協力して野外炊事をがんばりましょう。」

という話をして、仲間と協力し、段取り良く作業を進めるという体験を通じ、生活力（コミュニケーションスキル、家事・暮らしスキル、課題解決スキル）の育成を目指す

## 生活力（続き）

＞焼き板 道具返却時の点検において（生活力）

・自分の点検順を待っているだけの生徒がいるので、次の点検へすぐに移すことができるように  
→「待っている間にできることはないかな。改めて道具箱の中身が揃っているか、整頓できているか、確かめてみよう。」

と、先を見越した行動ができるような声かけをする。

＞うどん調理係 野菜を切って具材やうどんの麺を茹でる前に（生活力）

→「調理係のみんなに配膳をしてもらいますが、うどんは時間がたつと麺が伸ばしてしまい、おいしくなくなってしまいます。そこで、クラスごとに調理係で集まって『どうすれば麺が伸びることなく素早く配膳できるか』考え、役割を決めたり、どんぶりなどの配置を決めたりして、作戦を立てておいてください。」

ポイントは『素早く、正確に』です。慌てて配膳をし、こぼしてしまったりしても代わりのうどんはないので、こぼさないように注意して配膳してください。

それでは、クラスごとに作戦会議スタート！！

という声かけをすることで、仲間と協力し、段取り良く作業を進めるという体験を通じ、生活力の育成を目指す。

＞カレーかまど係 かまどの火がうまく着かない場合において（生活力）

・職員が初めに示した着け方を思い出すように「新聞の丸め方が悪い」というのではなく  
→「火を着けるためのポイントは何があったのか」と促し、ポイントをチェックさせるようにする。また、「火が着いているグループはなぜ着いているのだろうか？」「隣のグループに聞いてみたら教えてくれるかもしれないよ。」

と声掛けをし、友だちと協力しながら活動させるようにすることにより、自発的・共同的に問題解決する体験を通じて、課題解決スキルの育成を目指す。

＞カレー調理係 包丁を使った経験が少ない場合において（生活力）

・包丁を使った経験が少なく、野菜を切っているが作業が雑で野菜の大きさがバラバラの場合  
→体験（経験）の一環と捉え、その場ではこれといった声かけは行わない。

野菜を切り終わり、煮汁抜き等の全体説明をする際に、

「みなさん上手に野菜が切れましたね。少し包丁の扱いが苦手な人は野菜の大きさがバラバラになってしまったみたいです。野菜の大きさがバラバラになってしまった人は、食べる時に野菜の食感などをちょっと意識してみてください。そして、もし今度自宅などでカレーを作る機会があれば、今日食べて感じたことを次の機会に生かしてみてもらえればと思います。」

それでは、この後の作業について説明していきます。………」

という声掛けをすることで、今回体験を通して感じたことを、次に生かそうとすること（家事・暮らしスキル）を目指す。

## 生活力（続き）

### >焼き板（生活力）

・準備や焼くなどの作業等の時間に待っているだけの生徒に対して、全体に説明する時におおよその時間の配分について話をしたり、担当の教員に話してもらったりする。

→「焼き板の終了時刻は〇時〇分なので、△時△分頃には、グループのみんなが焼いた板にヒートンや目玉が付けられるようにしよう。そのために今できることを、友だちのためにできることをいつも考えておこう。」

と時間の見通しをもたせることで、ただ待ったり指示されてから動いたりするのではなく、各自ができることを考え、みんなと協力できるようになることを目指す。

## 責任感・連帯感

### >うどん・カレー 全体説明において（責任感・連帯感）

→「今日は、みんなで協力して野外炊事がんばって下さい。

『協力』とは、『目的に向かって力を合わせて物事に当たること』です。

今日みんなの目的は、おいしいカレーを作ること。

力を合わせてっていうのは、みんなで一緒なことをするのではなく、自分に与えられた役割は何かを考え、それを果たすことです。

今日は、おいしいカレーを作るために、自分の役割を果たすとともに、自分にできることは何か考え、野外炊事がんばってください。」

という話をして、自分の役割に責任を持ち、その役割を果たすことを意識させる。

### >うどん 活動後の終わりの会において（責任感・連帯感）

・うどんを食べ、最後に職員の挨拶で、子どもが振り返れるような話をします。

→「今日のうどんは美味しかったですか？実は、五色台のうどんには「隠し味」というスパイスが入っています。他のお店では売っていない、家のうどんにも入っていない、あなたたちだけの隠し味です。この秘密のスパイスを大切に、また学校生活で生かしてください。」

という話をして、自分の活動を振り返ってもらう。

### >カレー用具係 飯ごうの変化を見ようとしていない場合において（責任感・連帯感）

・飯ごうの変化があったが、特に何もせずに見ているグループの場合

→「飯ごうの変化はあった？変化があった場合はどうしたらよかったかな？」

「思い出せない時は、グループで相談したり、違うグループの生徒に聞いてみたりしたら？」

「みんなの為に美味しいご飯を作ってね。」

「ご飯が美味しく炊けているとみんなが笑顔になるよ。」

という声掛けをすることで、自分の役割に責任をもち、友達に相談したり、助け合ったりする姿を期待する。

## 責任感・連帯感（続き）

＞うどん・カレー調理係 包丁を使った経験が少ない場合において（責任感・連帯感）

・包丁を使った経験が少なく、野菜を切る作業ができていない場合

→「最初はみんな包丁を使うのが、苦手だったんだよ。指だけは切らないように注意して、班の友達に教えてもらいながら挑戦してみたら？本当にゆっくり、ちょっとずつでいいからね。できる範囲でやってみて！」

「包丁使うのは苦手？どうしてもできそうにない？じゃあ、調理係の仕事が他にもいくつかあったと思うから、友だちと相談して、自分にできることをやってみたら？」

という声掛けをすることで、自分の役割に責任を持ち、友だちと一緒に作り上げる達成感や連帯感を味わわせることを目指す。

＞うどん竹ばし係 竹ばし作りに疲れて（飽きて）休んでいる場合において（責任感・連帯感）

→「疲れたのかな？では、まだ足りてないお箸の本数を数えて、あと1人何本作れば完成するかをみんなに伝えて、早く完成できるようお願いしてみよう。」

という声掛けをし、疲れた手を休めながら、みんなで協力し完成させることで、達成感や連帯感を味わわせることを目指す。

## 自己有用感

＞うどん係 うどん玉を伸ばす場合において（自己有用感、責任感・連帯感）

・うどん玉を伸ばす際に、A君とB君のペアで伸ばしている。

A君は力があり、スムーズにうどん玉を伸ばすことができるが、B君はあまり力がないので、A君ばかりがうどんを伸ばし、B君はあまり参加できていない。

→「力を入れて伸ばすと、どうしてもうどんの記事が凸凹でちぢれ麺のようになってしまうので、もう1人が優しい力で伸ばすことで麺が平らになり、ツルっとした喉越しになって美味しくできあがるよ！2人で協力して美味しいうどん麺を作ってね！」

という声かけをすることで、力がなくても自分にできることを見つけ、協力して活動に参加できることを目指す。

## 自然愛護

＞カレーかまど係 2回目のかまど係が余った薪を返しに来た場合（自然愛護）

→「昨日よりも少ない薪で、炊事をすることができたんだね。どんなことに気を付けましたか？」

＞カレー用具係 飯ごうでお米を洗っている場合（自然愛護）

→「昔は、このとぎ汁を捨てずに暫く置いておき、ぬかが下の方に沈んだら上の方のきれいな水で顔を洗い、その残りの水で雑巾がけに利用していた。山の上では、水が貴重で大切に利用していた。五色台も山の上なので、水は下からポンプでくみ上げています。とても貴重な水

なので、大切に使おう。」  
と教えてあげることで、水を無駄にせず、大切に使おうという気持ちになってもらう。

## 自然愛護

＞カレー調理係 野菜の皮を厚く切っている場合（自然愛護）

→「野菜を切る時、できるだけ皮を薄く切るようにして、ゴミが少なくなるよう意識して切ってみよう。その方が食べる分量も増えるから、みんな喜ぶと思うよ。」

と声かけすることで、少しでも生ゴミの量を減らし環境負荷を減らすことができる。

＞焼き板 （自然愛護）

→焼き板を焼くための薪がどれくらい必要か、初めの説明の時に質問する。答えは、予想だけし、薪を使用する量を意識させる。活動中に、「使用する薪の量は〇〇束だったね。今どれくらい使ったかな。」と声掛けをし、使い過ぎていないか確認させる。活動後、およその薪の使用量を伝え、予想とどう違ったか考えさせる。

そのことにより、火を燃やすにはかなりの薪の量が必要であることを実感させる。

＞かまど係 薪をくべすぎて、必要以上に大きな炎で調理している場合において（自然愛護）

→「炎の大きさはどのくらいと説明されましたか？」

「薪を必要以上に使うことは、資源を大切にしていますか？」

「炎の大きさを忘れたら、飯ごう係や調理係と相談してみたら？」

「美味しいカレーができるかどうかは、かまど係の火の調節にかかっているよ。」

という声掛けをすることで、友だちと協力し、考えながら必要な薪を使う態度や、自然を大切にしようとする意識が芽生えてくることを期待する。



# 野外炊事 目標設定のお願い

別紙7

令和3年度より、各中学校において、宿泊学習全体を通じた目標及びこれを踏まえて野外炊事の目標を設定するよう、お願いします。センター職員は、設定された目標に参加する全ての教員及び生徒と共有し、達成できるよう生徒への声かけ等を行い、野外炊事の活性化をめざします。

中学校 実施日程 月 日 ~ 月 日 【センター側担当: 】

① 野外炊事で特に達成したい目標を1つ～2つ設定してください。

(※ 可能であれば生徒が決定することで、自覚を持ちやすいかと思います。)

項目	目標
公共心	次に使う人のことを考え、使った場所や借りた食器類をもとの状態に戻す体験を通じ、他者を思いやる心を育むことができる。
生活力	自然の中の限られた環境で、火や刃物を安全に扱い、仲間と協力し、段取り良く作業を進めるといった体験を通じ、生活力を育むことができる。 (コミュニケーションスキル、課題解決スキル、家事・暮らしスキル)
責任感・連帯感	自分の役割に責任を持ち、その役割を果たすことで、仲間とともに作り上げる達成感や連帯感を味わうことができる。
自己有用感	仲間と協力して活動することで、学校生活では分からなかった仲間の良さに気付くとともに自己有用感を育むことができる。
自然愛護	水や薪の使用量、ゴミを減らすことで、環境を守る意識を持つことができる。
学校独自の目標	

※ 上記は一例です。学校独自の目標を設定することも可能です。

② 中学校のしおりの野外炊事頁に目標を必ずご記入ください。

※ センター職員は、しおりを見て学校の目標を確認します。

③ 野外炊事当日、センター職員は全体説明で目標について意識づけを行います。

※ 代表生徒のあいさつ等に組み込み、全体に意識づけを行うこともご検討ください。

④ センター職員は、活動中に目標を達成できていない生徒に対し、声かけを行います。

※ 基本的には、何か問題が起こった際、まず生徒が自分で考え解決できるよう、自発的・自治的な活動を重視した声かけをします。

※ 生徒の実態が不明なため、直接的な指導は行いませんが、危険な行為に関しては直接指導を行います。

⑤ しおり等を活用し、振り返りをお願いします。

※ 終わりの会でセンター職員からの話を実施する場合、センター職員は振り返りにつながるような話を取り入れます。また、代表生徒のあいさつ等に組み込み、全体に意識づけを行うこともご検討ください。

# 公 共 心

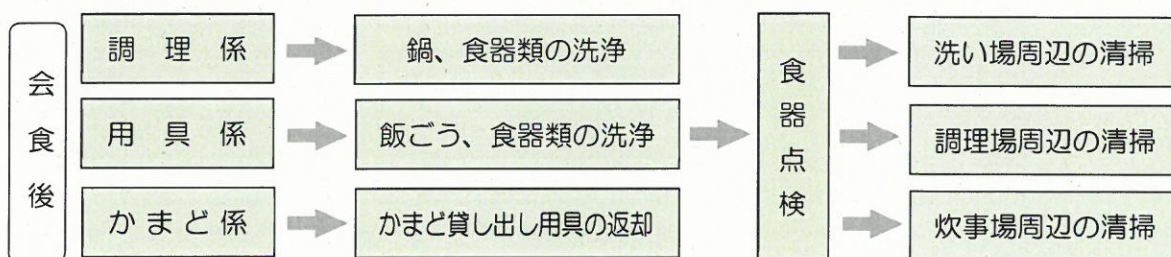
次に使う人のことを考え、使った場所や借りた食器類を  
もとの状態に戻す体験を通じ、他者を思いやる心を育むことができる。

## 【主な取り組み】

- 使った場所や借りた食器をきれいに清掃
- 十分な洗い場を確保するため、いろりの家等も開放
- 少ない班員設定で、1人1人に十分な活動量

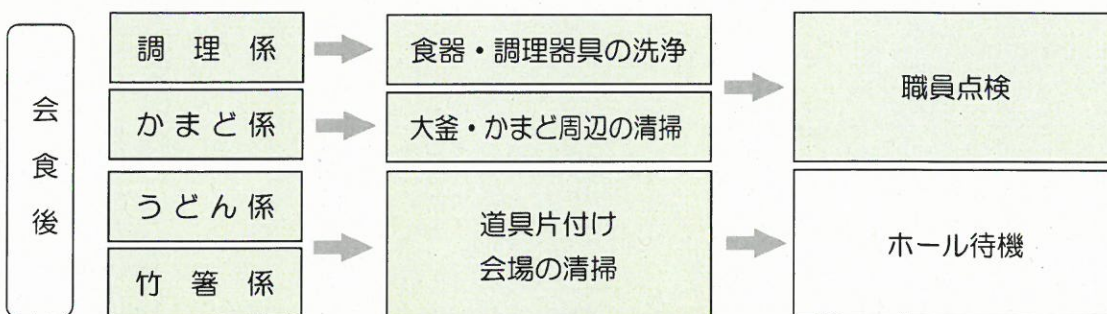
※ 下の表では、公共心を育むことができると思われる係および体験を  で表している。

## カレーの場合



カレーの場合、公共心を育む体験を**全員が実施できるため、おすすめ！**

## うどんの場合



うどん係と竹箸係が、公共心を育む体験が少ないため、  
中学校独自で設定した活動に取り組むことで、より充実した内容になる。



# 生活力

自然の中の限られた環境で、火や刃物を安全に扱い、仲間と協力し、段取り良く作業を進めるという体験を通じ、生活力を育むことができる。  
(コミュニケーションスキル、課題解決スキル、家事・暮らしスキル)

## 【主な取り組み】

- 生徒たち主体で役割分担
- 自発的・自治的な活動になるような声かけの実施
- ※ 野外炊事を2回実施することで、より効果が期待できる。
- ※ 学校で事前にルール決めや作業確認をしたり、事後に振り返りの時間を設けたりすることで、より効果が期待できる。

生活力を次の3つのスキルに絞って設定した。それらについて詳しく説明していきたい。

### コミュニケーションスキルとは

- ① 仲間と相談しながら、物事に取り組むこと。
- ② 自分と違う意見や考えを、受け入れること。
- ③ 仲間が悪いことをしていたら、やめさせること。

### 課題解決スキルとは

- ① 1つの方法がうまくいかなかったとき、別の方法でやってみること。
- ② トラブルがあったとき、原因を探ること。
- ③ 目標達成に向けて努力すること。

### 家事・暮らしスキルとは

- ① 先を見越して段取り良く作業を進めること。
- ② 包丁で野菜を適切な大きさに切ること。
- ③ 火加減を適切に調整すること。

- これらが達成できるような目標を設定
- ルールは多くなりすぎないように注意
- 班ごとにルール決めすることも可能

野外炊事では、班員や同じ系の仲間とコミュニケーションを取りながら小さな課題を解決していかないと作業を進めることができない。また、失敗も含めたさまざまな体験をするため、生徒主体で取り組ませることでより効果的になると考える。

なお、2回以上野外炊事を実施することで、1回目の反省を生かし、仲間と作業の確認をするなどのコミュニケーションや、先を見越して段取りよく作業を進めるなどのスキル育成がより充実したものになると考える。

生徒の自主性を求めると、当然そこには人間関係のトラブル等も発生しやすい。そのため、事前のルール決めや事後の振り返り（フォロー）が必要となってくる。



# 責任感・連帯感

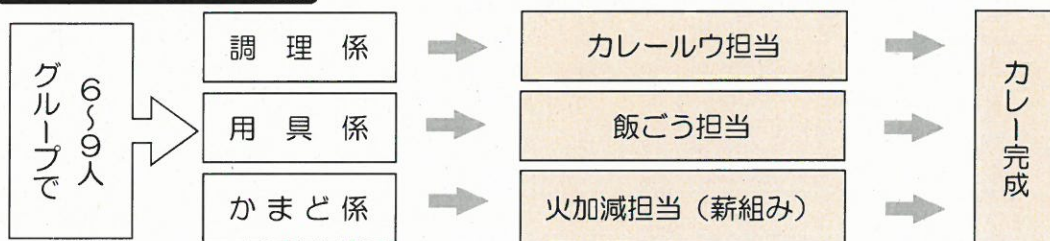
自分の役割に責任を持ち、その役割を果たすことで、仲間とともに作り上げる達成感や連帯感を味わうことができる。

## 【主な取り組み】

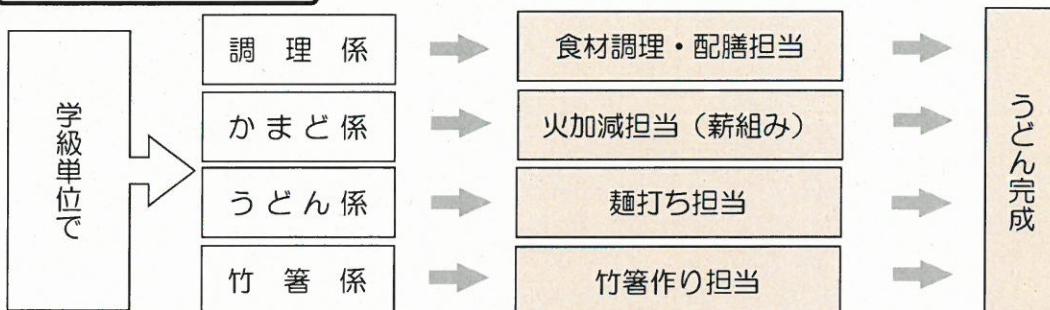
- カレーの場合  
⇒ 少ない班員（各役割に2名程度）の班編制
- うどんの場合  
⇒ 竹箸作りを選択し、各役割の1人当たりの活動量を増加
- 『協力する』ことの大切さについて意識づけと声かけの実施

当センターの野外炊事では、みんなが同じ作業をするのではなく、役割分担して作業を行う。どの役割が欠けても食事が完成しないため、責任感や連帯感を生徒たちが実感できる活動と言える。また、各係の人数を少なくすることで、1人当たりの活動量が多くなり、より責任感を持ちやすいと考える。

## カレーの場合



## うどんの場合



うどんの場合はクラス単位で調理を行うが、カレーの場合は6人～9人程度の小グループで調理を行うため、班員同士の結びつきが強く、責任感・連帯感を実感しやすいため、おすすめ。しかし、班員を少なくするとグループ数が増え、食器点検の時間が通常より長くかかるので、注意が必要。



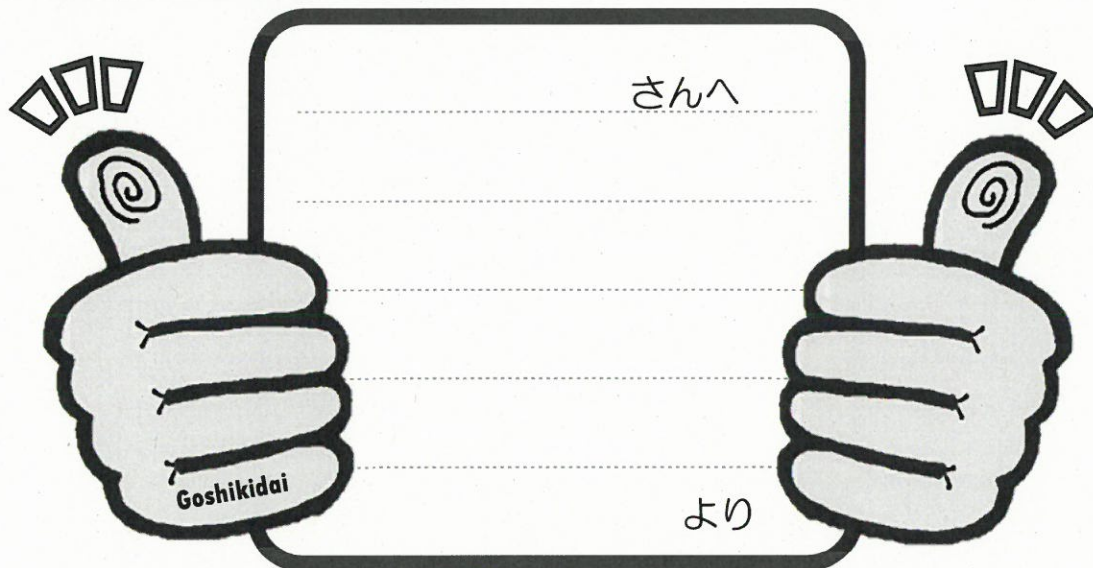
# 自己有用感

仲間と協力して活動することで、  
学校生活では見られない仲間の良さに気付くことができる。

## 【主な取り組み】

- 活動後に『友だちの良いところ発見カード』を記入
- 苦手な活動があっても、自分にできることを見つけ、取り組むことができるような意識付けと声かけの実施

### 友だちのいいところ発見カード(例)



キャンドルサービスで交換する時間を設けたり、学級に掲示したりして活用する。

### 声かけ事例

- 包丁を使うのが苦手で、調理に参加できないAさんへ  
⇒ 「調理係の仕事で他に何かAさんにできそうなことはない？  
友だちと相談して、自分にできることをやってみたら？」
  
- 力が弱く、うどんを伸ばすことができないBさんへ  
⇒ 「力を入れるとしっかり伸びるけど、麺が凸凹でちぢれ麺のようになってしまうから、仕上げにBさんが優しく伸ばしてみても！  
そうすると麺が平らになって、食べるとツルっとした喉越しで美味しいよ！」

苦手なこと(できないこと)に目を向けるのではなく、できることを見つけ、活動することで、お互いの良さを見つけられるように支援する。  
事前に、気になる生徒への声かけについて共通理解をする必要がある。



# 自然愛護

水や薪の使用量やゴミを減らすことで、  
環境を守る意識を持つことができる。

## 【主な取り組み】

- 食材を無駄なく使用
- 水を大切に使用
- 資源を有効的に使用

### 食材を無駄なく使用する

- 具体例 ⇒ 季節によっては、野菜の皮などをむかずにそのまま調理  
⇒ できるだけ薄く野菜の皮をむく  
⇒ 食べ残しをしない

これらの取組を実践することで、限られた食材を有効に使い、食べる分量も増えるとともに、ゴミの量が減少する。そのことから、食べ物を大事にしようとする心を育てる。

### 水を大切に使用する

- 具体例 ⇒ お米を洗う回数を減らす  
⇒ お皿にラップを敷いて、洗剤の使用を減らす  
⇒ カレー鍋を洗う前に新聞紙等で汚れをできるだけ拭きとる

香川県は地理的条件もあり、古くからたびたび水不足に悩まされてきた。そこで、野外炊事の中でも節水に取り組ませることで、節水対策について理解させる。

### 資源を有効活用する

- 具体例 ⇒ 効率的に無駄なく薪を組む  
⇒ 身近な竹林から切り出した竹を使って、竹ばしを製作する

昔の日本は、身近にある木や竹（資源）を利用して、燃料にしたり道具を作ったりして、自然と共存しながら資源を有効活用していた。現代のような化石エネルギーに頼って地球温暖化を招いている生活について考えるきっかけとすることができる。

事前に理科や技術・家庭科などの授業でエネルギーや環境問題について学習し、野外炊事で実践することで、環境問題に取り組む意識が更に深まることをめざしたい。

また、学校独自の取り組みがあれば可能な範囲で対応したい。